

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪—もう一つの平泉—』パンフレット — 19頁

3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ③ 外縁遺跡

《五大明王(不動明王を欠く)(紫波町遠山 正音寺)(1)》

五大明王は「不動明王」を中心に東方に「降三世明王」、西方に、「大威徳明王」、南方に「軍荼利明王」、北方に「金剛夜叉明王」の配置で構成される明王の組み合わせです。中尊の「不動明王」は、顔一つ腕二つ(一面二臂)ですが、他の四明王顔が複数、腕が多数ある(多面多臂)姿で、髪は逆髪形で目も三目や五目など多数ある造形です。「大威徳明王」を例に示すと六面六臂六足(顔六つ、腕六本、足六本)という怪異な姿です。五大明王はいずれも顔が「忿怒相」で牙をおき出し、目を怒らした恐ろしげな容貌です。この様な容貌、姿は、仏が仏法に従わない者を脅し教え諭し、仏法に敵対する事には力づくで止めさせるために変身する姿「教令輪身(忿怒身)」とされます。

《《《 9月～10月行事予定のお知らせ 》》》

<p>9月18日 (水曜日)</p>	<p>第105回 月例発表会 多忙で聴講できなかったスタッフが多かったことから、11月まで3回シリーズでビデオ観賞を行います。</p>	<p>午後7時から午後9時まで 10周年記念行事のビデオ鑑賞と意見交換(第1部) シンポジウム 基調講演 東北大学大学院 教授 柳原敏昭先生 テーマ:平泉と並び立つ「比爪」の実像を探る。</p>
<p>9月22日 (日曜日) ～23日 (月曜日)</p>	<p>設立10周年記念 県外研修旅行 □ 参加料 <30人参加の場合> 27,000円 <20人参加の場合> 31,000円 □ 参加受け 先着30人までとし、超えた場合はキャンセル待ちとなります。 ※ 詳細は別紙パンフレットを、ご覧ください。</p>	<p>阿津賀志山防塁と関連史跡などを巡る旅 泰衡の異母兄、西木戸太郎国衡が、頼朝を迎え撃った激戦地阿津賀志山防塁と、泰衡が本陣を構えた鞭館跡や関連史跡・遺跡などを巡り、往時を偲び“樋爪”を見つめ直す、10年に一度のちょっと贅沢な県外研修です。 【22日】8:00赤石公民館発～高蔵寺阿弥陀堂(角田市)～甲冑堂(白石市)～阿津賀志山防塁(国見町)～医王寺(福島市)～奥飯坂:穴原温泉「匠のこころ吉川屋」泊 【23日】大鳥城跡(飯坂町)～文知摺観音多宝塔(福島市)～霊山城跡(伊達市)～阿武隈川河口(亘理町)～鞭館跡(仙台市宮城野区)～17:00赤石公民館着(予定)</p>
<p>10月16日 (水曜日)</p>	<p>第106回 月例発表会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 10周年記念行事のビデオ鑑賞と意見交換(第2部) シンポジウム パネルディスカッション コーディネーター 羽柴直人氏 パネリスト 柳原・鈴木・西澤・八重樫・井上の各氏</p>

*** お便り紹介 *** シンポジウムに参加された滝沢市の方から、お便りをいただきました。今後の会員発表のテーマにしたいような内容ですので、一部抜粋して紹介します。

講演を聞いて、次の点についてこれから研究されれば、より面白くなると感じました。

- 1 頼朝軍が来たとき樋爪氏は本領を安堵された。その後、斯波氏、南部氏が台頭する中で樋爪氏の居住が困難になったのではないかと。室町以降、新たな勢力との力関係はどう変化したか?
- 2 現在の樋爪姓は関西、北陸に多い。室町以降に関西方面に移住したのではないかと。藤原時代に樋爪氏は関西との交流、交易があり容易に移住できたのではないかと。(勝手な推測です。) 交易が樋爪氏の豊かさに繋がっていないか? 交易内容の糸口はないか。～以下3.4、省略～

【南日詰大銀Ⅱ遺跡—第1次～第3次発掘調査報告—】(2) <昭和60年3月 紫波町教育委員会>

I 南日詰大銀Ⅱ遺跡 第1次～3次調査 5頁

2 調査に至る経過

(1) 第1次調査・第2次調査

平成26年8月、紫波、稗貫衛生処理組合の平成30年度解散に伴う同組合し尿処理場解体と、跡地の紫波町取得及び紫波町新汚泥再生処理施設建設設計画について紫波町役場産業部環境課と事前協議を行った。

現地を確認した結果、し尿処理場の敷地は全て南日詰大銀Ⅱ遺跡(LE77-1104)に含まれており、昭和40年代の処理場建設工事で破壊された箇所も推測されるものの、駐車場等の地下に遺構・遺物が破壊を免れて存在していることが考えられ、平成27年1月27日～28日にかけて同組合事務所西側駐車場を管理者承諾のもと試掘調査した。その結果、敷地内より12世紀頃のものと思われる遺構、遺物が多数発見されたことから工事着手前の緊急発掘調査が必要である旨を同課に対して回答した。

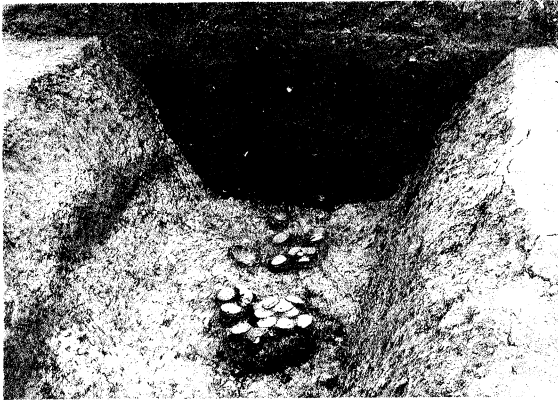
当時、紫波、稗貫衛生処理組合し尿処理場は稼動中であったため、紫波町新汚泥再生処理施設建設工事に係る発掘調査期間を施設解体スケジュールと調整の上、2カ年とし、下記の日程で記録保存調査を行った。

〔第1次調査〕 平成27年4月14日～7月17日 (調査面積 418㎡、紫波町単独事業)

〔第2次調査〕 平成28年4月4日～7月25日 (調査面積 498㎡、紫波町単独事業)

第1回 赤石公民館 樋爪館入門講座 (協力事業)

かわらけなどが出土した溝跡



小石を敷き詰めた状態の門柱跡



7月11日に赤石小学校正門向い南側で、紫波町教育委員会が実施している第33次比爪館発掘調査の現地見学会を実施し、主任文化財専門員の鈴木賢治さんに解説をしていただきました。狭い面積でしたが、掘立柱建物跡になりそうな柱穴が多数あり、途中で切れている溝跡など遺構が密集している状態でした。12世紀の遺物も出土しており、樋爪館が小学校の東側に広がっていることを、あらためて実感することができました。

なお、その後の調査で、溝の途切れた箇所で大銀Ⅱ遺跡第2次調査で発見された門跡に類似する柱穴が確認されたことから、この箇所が土橋と推定されることや、第7次と第17次調査で検出されている溝との関連も考えられることから、今後の調査報告を期待して待ちたいと思います。

◇ ◆ ◇ 新規加入会員 ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆

<8月20日現在会員数58名>

樋爪数子様 (富山県)、樋爪源一郎様 (石川県)、樋爪憲三様 (石川県)
 樋爪和夫様 (富山県)、中谷洋子様 (富山県)、樋爪健志様 (京都府)
 樋爪義則様 (北海道)